

学 校 名	山形市立蔵王第一小学校 山形市蔵王成沢西四丁目3番17号 TEL688-2210 FAX688-9041	校 長	細川 直弥
		研究主任	石川 史朗
研 究 主 題	<p align="center"> 「主体的に学ぶ子供の育成」 （6年次） — 「振り返り」 を自らの学びに生かして— </p>		
研 究 主 題 設 定 の 理 由 と 目 標	<p>本校の教育目標は「豊かな心を育み 自ら学び たくましく生きる子供の育成」である。その具現化のため、探究型学習に重きを置き、自ら学ぶ課題の設定や互いに学び合おうとする学級づくりに力を入れながら、平成30年度から「主体的に学ぶ子供の育成」という主題で研究を進めてきた。主体的に学ぶ子供の姿について話し合いを重ねて「めざす主体的に学ぶ子供の姿」を設定し、それを実現するための単元づくりをし、次に示す3つに重点を置いて実践を重ね、成果と課題をまとめてきた。</p> <p>(1) 子供にとって、意欲的に取り組むことができたり必要感があったりする「課題」 ①目的意識・相手意識をもたせること</p> <p>(2) 「学び合い」を大切にした指導や支援の在り方 ①ツールや掲示物を活用すること ②時間の保証と場の工夫をすること</p> <p>(3) 思考の深まりを実感できる「まとめ」、次時への課題とかかわりを意識した「振り返り」 ①振り返りの積み重ねと、今後に生かす手立てについて ②振り返りを用いた「主体的な学習に取り組む態度」の評価について</p> <p>今年度は、昨年度に引き続いて「課題」「学び合い」「まとめ・振り返り」の3つの指導を意識しながら、「振り返り」を広義に捉え、子供が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を核にしなが、主体的に学ぶ子供の姿を追求していく。</p>		
研 究 の 仮 説	<p>(1) 令和4年度の研究成果 昨年度の研究を受けて、学習カードや写真を用いた視覚的な振り返りの可能性が見えたことや、振り返りの型や視点を児童と共有することで学習の進め方の自己選択や自己決定につながり、個別最適な学びに迫る児童の姿が見られたことなどといった成果が見られた。また、前時の内容を振り返る活動を入れることで、児童が自分自身の思考や学びを客観視し、見通しを持つことができたり意欲が向上したりといった成果が見られた。</p> <p>(2) 令和4年度の研究の課題 振り返りの型を示す成果が見られた一方、どのような観点で振り返りをさせるとよいかについては課題が残っている。また、単元や本時で達成したいこと自体が曖昧になると、振り返りも作業的になっていたことが挙げられた。また、そもそもどのような姿を「振り返り」ができていると見取ればよいのか、職員間でどのような児童の姿を目指すべきなのか、といった根本的な課題も明らかになった。</p> <p>(3) 課題を受けた研究の仮説 現状、本校の教育目標である「豊かな心を育み 自ら学び たくましく生きる子供」は、目指す「資質・能力」として評価できる形で明確化されていない段階である。達成すべき「資質・能力」が曖昧であったことから、目標達成のための手段である「振り返り」が機能しない場面があり、(2)で示したような課題点が見られたのではないだろうか。 この部分が明確となり全職員で共有されることによって、「振り返り」で目指す方向性が明らかになっていくと思われる。また、カリキュラム・マネジメントの質の向上も期待できるだろう。</p>		
	<p>(1) 「振り返り」の捉え方 定義：自身の目標設定や計画、修正など自分の思考や行動を客観的に把握し認識すること</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p align="center">引用または参考</p> <p align="center">学習指導要領解説 総則編 P38 「③学びに向かう力、人間性等を涵養すること」の説明より 『自分の思考や行動を客観的に把握し認識する、いわゆる「メタ認知」に関わる力』</p> </div>		

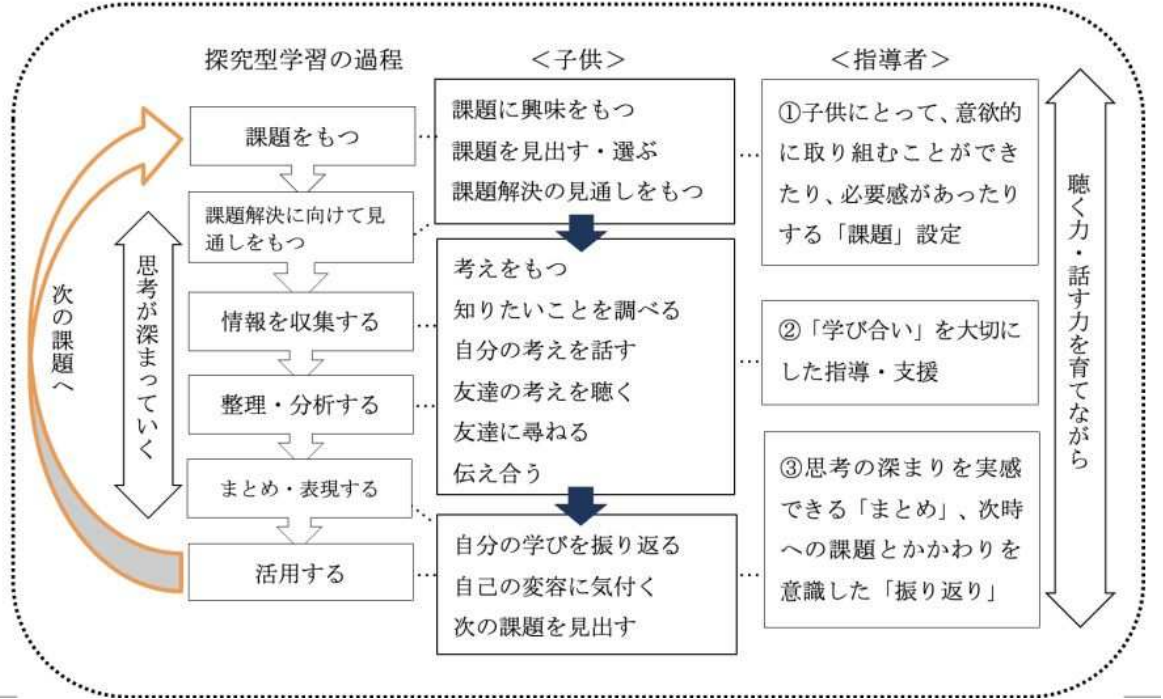
各教科において、学びの高まりに有効な「振り返り」を広義に捉え、子供が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動に重点を置く。単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、見通しを立てたり振り返ったりする場面を設定し、子供自身が目標設定や計画、修正など自分の思考や行動を客観的に把握し認識できるようにしていく。

(2) 学びのイメージ

図3で示すように、「探究型学習」のプロセスを踏まえた「学びのイメージ」をもとに、「振り返り」に重点を置いた授業づくりを行う。

研究の内容

【図3】



(1) 学校教育目標の具体化

図4で示す表を用い、学校教育目標を目指す「資質・能力」として明確化し、学年ごとに実態に応じて更に具体的に目指す姿として位置づける。

研究の方法

【図4】

学校教育目標を「資質・能力」として明確化するためのワークシート

学校名:山形市立蔵王第一小学校

学校教育目標	豊かな心を育み	自ら学び	たくましく生きる
目指す子ども像 ※教育課程2-3より抜粋	豊かな感性を持ち、周りを思いやり、ともに生きようとする子ども	自分で考え、判断し、実行する子ども 他者との学び合いを通して、互いに高め合おうとする子ども	健康でたくましい体力・気力をもち、めあてに向かって粘り強くやりぬく子ども
4月7日の 始業式式辞より (参考)	・感じたことを素直に受け止め表現できる ・自分や友達の感じたことや考えたことをお互いが尊重し、思いやりの気持ちをもって協力して生活できる	・自分なりの考えをしっかりともち ・友達との学び合いや読書などを通じて、新たに知ったことや大切に思ったことを取り入れて、自分を一層高めたいこうと努力できる	・自分の体を大切に毎日元気に楽しく活動できる ・自分の目標に向かってあきらめず粘り強くやり抜くことができること ・心の体力をつけること
ここに、学級の実態をメモしておいてください。 5月15日(月)(※予定) に、学校全体で目指す力をみなさんと話し合ってください。			
学校としてつきたい 「資質・能力」 (評価しやすい言葉だとい)	できる力	できる力	できる力

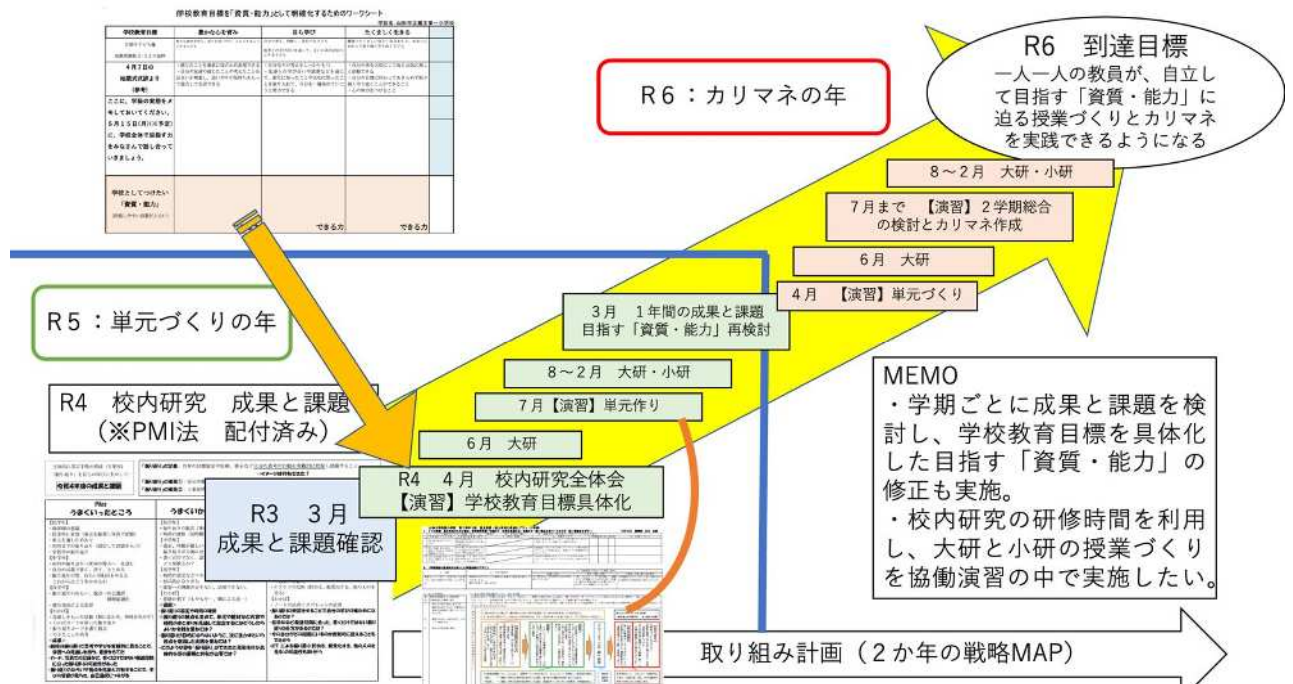
(2) 目指す「資質・能力」に迫る授業づくり

校内研究全体会の時間を活用した授業づくりの演習を通して、目指す「資質・能力」に迫る授業づくりの研修を実施し、目指す「資質・能力」を意識した単元構想ができるようにしていく。

(1) 研究計画

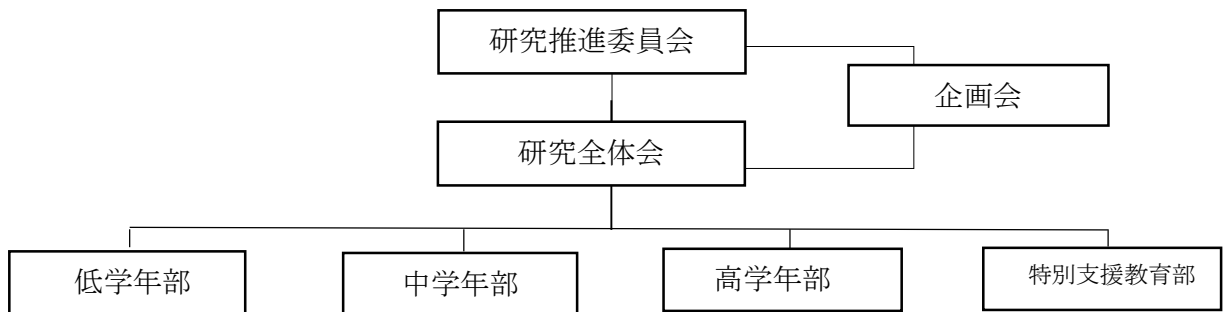
図6で示すように、今後2か年計画で目指す「資質・能力」に具現化を図る。1年目は目指す「資質・能力」に迫るための単元づくり、2年目は目指す「資質・能力」に迫るためのカリキュラム・マネジメントを推進する構想で実施する。

【図6】



研究の計画

(2) 研究の組織



- ★研究推進委員会：研究についての指針を決定するとともに、内容を討議し、推進を図る。
 - ・校長 ・教頭 ・教務（園部） ・副教務（江口） ・特別支援（野口）
 - ・1年（萩原） ・2年（柘屋） ・3年（笹原） ・4年（眞壁） ・5年（石川） ・6年（佐藤智）
- ★企画会：情報収集、研究方法、スキルアップ勉強会（仮）の検討などを行う。研究主任と副研究主任が、クラブ活動と同じ時間帯に行う。
 - ＊クラブ活動との兼ね合いで、可能であれば開催する。
- ★校内研学年部部会：授業創り（事前研究会、事後研究会）、理論の構築、授業実践を行う。

低学年部	◎柘屋 ・萩原 ・松井 ・中村 ・園部
中学年部	◎笹原 ・金沢 ・眞壁 ・梅瀬 ・佐藤洋
高学年部	◎石川 ・和田 ・佐藤智 ・工藤 ・江口
特別支援教育部	・野口 ・横尾 ・今野 ・岡崎 ・上谷

※◎は大研授業者